

阪神・淡路大震災 30年、問い直そう —私たちの被災者責任・これからの被災地責任

日程：2025年1月11日（土）～12日（日）

会場&オンラインのハイブリッド開催

「被災者責任」、あるいは「被災地責任」という言葉は、通常、庇護されるべき被災者、憐憫の視線を注がれるはずの被災地に「責任を果たせ」と迫る。被災者・被災地にとっての「責任」とは何か。責任を果たすべき「使命」とは何か。被災地KOBでは、その問いに答えようとした人たちが少なからずいた。その人たちが果たした「被災者責任」とはどのようなものだったのか。また、果たせなかった「被災地責任」とは何だったのか。改めて過去に向き合い、未来に視線を投じて、二つの「責任」を考えることにより、わが国の災害史における阪神・淡路大震災の位置づけと、被災地KOBがこれからの未災地に向けて果たすべき役割を考える。

1月11日（土）13:00～17:30

場所：関西学院会館レセプションホール

総合司会・羅貞一（関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員）

全国被災地交流集会「円卓カフェ」

「KOBからのメッセージ 私たちが遺すべきもの」

所長の山泰幸が長年地域で実践をしてきた「哲学カフェ」の形態で「円卓カフェ」として実施予定。「哲学カフェ」とは、フランスのパリが発祥の地で、毎週日曜日の午前、喫茶店に人々が集まってコーヒーを飲みながら、自由にいろいろなテーマで議論をする場のことで、現在、日本各地で開催されている。今回は、「KOBからのメッセージ 私たちが遺すべきもの」をテーマに、被災地KOBがこれからの未災地に向けて果たすべき役割について語り合うことにしたい。

- ☐ 第一部 被災地KOBからのメッセージ
私たちが遺すべきもの
- ☐ 第二部 これからの未災地に向けて果たすべき役割
- ☐ 第三部 全体討論会

司会・山 泰幸

（関西学院大学災害復興制度研究所所長・人間福祉学部教授）

関西学院 阪神・淡路大震災30周年記念礼拝

日時：2025年1月12日（日）10:30～11:30

場所：関西学院会館ベーツチャペル

＊どなたでもご参加いただけます（参加申し込み不要）。

申し込み方法（参加無料）

裏面のQRコードまたは参加申し込み用紙にてお申込みください。

1月12日（日）13:00～17:30

場所：関西学院会館レセプションホール

総合司会・羅貞一（関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員）

シンポジウム

「阪神・淡路大震災30年、KOBからのメッセージ 私たちが遺すべきもの」

（敬称略）

■特別講演『「被災の思想、難死の思想」から 「われ＝われ」のサラダ社会へ』

玄 順恵 水墨画家・作家

■基調報告『災害復興制度研究所20年の歩み』

山 泰幸

関西学院大学災害復興制度研究所所長・人間福祉学部教授

■基調講演『震災復興の30年を検証する』

室崎 益輝

関西学院大学災害復興制度研究所顧問・神戸大学名誉教授

■講演&パネルディスカッション

「阪神・淡路大震災30年、KOBからのメッセージ 私たちが遺すべきもの」

<パネリスト>

中村 順子 認定NPO法人CS神戸理事長

齋藤 富雄 兵庫県元副知事

大牟田智佐子 毎日放送報道情報局報道業務部次長

山中 茂樹 関西学院大学災害復興制度研究所顧問

<司会>

山 泰幸

関西学院大学災害復興制度研究所所長・人間福祉学部教授

関西学院大学 災害復興制度研究所